



## PROFILE

1978年静岡県出身。日本大学文理学部心理学科卒業。1992年バルセロナ五輪競泳女子200m平泳ぎ金メダリスト。現在は、水泳の楽しさを伝えるためのイベント出演を中心に活躍。2007年より日本オリンピック委員会環境アンバサダー。

5歳からスイミングスクールに通い始めて、プールがあることが当然のように育ってきました。でも、初めて出場したオリンピックで開発途上国の選手たちと出会い、自分がどれだけ恵まれた練習環境にあるかを知ったんです。

泳ぐための水どころか、飲む水も十分にない。プールで練習することもままならない彼らにとって、オリンピックは「泳ぎ切る」のが目標。その懸命に泳ぐ姿は、中学生の私にとって衝撃的でした。当たり前のことですが、水泳は「水」がないとできないスポーツなんだと…。小さいころから母親に「水を出しっぱなしにしない」「電気はこまめに消す」などと厳しく教えられてきましたが、水のありがたみを再認識するきっかけにもなりました。

このまま地球環境の悪化が進ん

でいけば、スポーツができる環境も奪われていきます。実際に地球温暖化の影響で、スキーやスケートなどの大会は、雪が積もらなくなったり、氷が張れなくなったりして開催できなくなっている場所もあるそうです。日本オリンピック委員会でも、環境とスポーツは切り離せないという考えのもとに、環境に配慮した取り組みを進めてきました。2007年には、私を含め11人の環境アンバサダーが任命され、競技を通じて接する選手や一般の方々への啓発活動、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進などを行っています。

また個人的には、何か少しでも地球のためにできることがあればと考え、その一環として選手時代の仲間と一緒に「ワールド・スイム・アゲンスト・マラリア※」の活動にも参加しています。それまでマラリアに関する知

識はほとんどなかったのですが、アフリカで働いていた友人から途上国で感染症に苦しむ人々の話を聞き、身近に感じる事ができたんです。水泳を通して、一人でも多くの命が救えるのならと思いつけています。

蛇口をひねれば水が出る、スイッチを押せば電気がつくという生活の中で、地球で起こっている問題を実感するのは難しいかもしれません。でも、見たことがないから、知らないからでは済まされない状況にきています。私はスポーツを通して、未来を担う子どもたちにも、そのことを伝えていきたいと思っています。

私たちができるのは、まず一人一人が意識することだと思います。身近で無理なくできることを、一緒にやってみましょう。

※マラリア予防の蚊帳を購入するため、世界規模で開催されているチャリティ水泳イベント。